

猿 橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

教師という仕事

校長 澁谷 一男

「校長先生、さっき、薄い月が出ていたんだよ！」登校して来るなり、1年生の女の子が教えてくれた。「ええっ？朝なのに月なんか出ていないでしょう。」と私。「本当だよ。ほらあっち。」小さな指が指した先には、澄み切った秋の空に、くつきりと寝待月ねまち(※)が浮かんでいた。「本当だ！よく見付けたねえ。太陽と月と両方見えるなんて、不思議だね。」

得意気に児童玄関へ向かう後ろ姿を見ながら、「教師は、時には役者にもペテン師にもならなければならない」若い頃、先輩教師から教えられた言葉を思い出した。

今月、神戸市の小学校で起きた教師間のいじめ問題が大きく報道された。悪質極まりない数々の行為が繰り返し映し出され、目を背けたくなった方も多だろう。また、県内では、児童買春で校長が逮捕されるという信じ難い事件が発生した。いずれの事件も、憤りを乗り越え、あきれて二の句が継げない。学校教育への信頼を大きく損ねたことは言うに及ばず、当該校の子どもたちや保護者・地域住民、教職員のことを考えると、身が切られる思いだ。

最近、教員を志す若者が減少傾向にあるという。「先生って大変らしい」「学校はブラック」そんなイメージが一人歩きしているようだ。先のような事件が、こうした傾向に拍車を掛けはしないかと心配になる。

もし「先生って大変ですか？」と問われたら、胸を張って答えたい。「教師は、明日を担い、未来を担う子どもたちの成長に立ち会う仕事だ。それだけに大変さもあるが、こんなにやりがいのある仕事は、ほかにそうあるとは思えない。子どもたちと一緒に笑い、泣き、悩みながら、共に成長を喜び合うことのできる素晴らしい仕事だ。教師という仕事に就いていることを幸せに思い、心から感謝したい。」と。

先日、岩船大祭に行ってきた。毎年、新採用時代の教え子たちが声を掛けてくれて、何軒かの家を回るのが恒例になっている。教え子たちは今年で44歳になるが、何年経っても先生と教え子の関係は変わらない。これもまた、教師であることのこの上ない喜びだ。

※寝待月：新月から19日頃の月で、満月の右側が少し欠けて見える月。「寝て待つ」くらい遅い時刻に東の空に昇り、翌日の午前中に西の空に沈む。

